

教育研究業績書

2023年10月23日

所属：教育学科

資格：准教授

氏名：藤本 勇二

研究分野	研究内容のキーワード
生活科教育 初等理科教育 ESD	自然体験活動 カリキュラム開発 食育 児童中心主義
学位	最終学歴
修士（教育学）	鳴門教育大学大学院 学校教育研究科 教科領域教育専攻 修士課程 修了

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 兵庫県教育委員会 食育ハンドブック高等学校版	2022年3月	兵庫県教育委員会において、高等学校における食育推進を図るために、教職員用「食育ハンドブック 高等学校版」を食育ハンドブック作成委員会委員長として作成した。
2. 食育に係るワークショップ型セミナー	2021年4月1日～現在	ゼミ生が幼児・児童・生徒を対象に食育を、食の実験、食育紙芝居・食育折り紙などのワークショップ型で伝えるセミナーを開催。食育フォーラム：主催上越市（2015年11月14日）、食と科学の不思議博：主催新興出版啓林館（2018年9月22日）、「早寝早起き朝ごはん」兵庫県フォーラム：主催兵庫県実行員会（2020年1月26日）等で開催。
3. 兵庫県教育委員会 食育ハンドブック中学校版	2020年3月	兵庫県の学校における食育の基本的な考え方や食育実践の事例等を掲載し、改訂された学習指導要領において食育を推進する手引となる食育ハンドブックを制作。
4. 港区学校教育食育推進指針を教える学校教育教本監修	2020年3月	生涯を通じて健康を維持する能力を獲得するための中学校での学習指導案を作成。
5. 港区学校教育食育推進指針を教える学校教育教本監修	2019年3月	生涯を通じて健康を維持する能力を獲得するための小学校での学習指導案を作成。
6. 大阪市立大学「学校栄養教育実践論」	2018年4月から	学校における食育の実践の方策や教材開発、全体計画の作成等について講義
7. 兵庫教育大学大学院「食育の考え方と進め方」	2017年04月から現在	食にかかわる多様な問題に対処するため、学校教育における食育実践のあり方と進め方について、生活科、理科等を中心に講義
8. ゼミ生による科学体験活動の支援	2010年4月～現在	キッチンサイエンスをテーマにした科学体験活動をゼミ生が幼児・児童・生徒に演示。「青少年のための科学の祭典2010」兵庫大会から出展。朝日小学生新聞サマースクール（2013年～2017年）出展。西宮市立小学校での科学教室開催（2015年～現在）。
9. PBL	2010年～現在	「教科生活」において学んできたことを踏まえ、生活科の9つの内容領域との関連を盛り込んだ発表資料をグループごとに作成し、ポスターセッション方式で発表を行う。本活動を通じて、生活科における体験の意味や言語活動の充実の意義を実感させ、コミュニケーション力の育成と教育内容の確実な修得を図ることが可能となった。
10. 理科教育	2004年現在に至る	「科学の祭典を開こう」そして「サイエンスフェアに出展しよう」 理科学習に対して、「意欲・関心は高いものの、自ら進んで実験に取り組む者が少なく、理科の意義や大切さについて実感していることも少ない」という子どもたちの課題から、下級生に科学実験を紹介するイベント「科学の祭典」を実施することを目標として取り組んだ。体験的・問題解決的な学習を通して科学への好奇心や探求心を高めるとともに科学の真の面白さや楽しさを体得し、理科を学ぶ意義を実感できる場をつくることができた。科学館と学校の連携の形として実績を残すこともできた。「野依科学奨励賞（国立科学博物館）」受賞：平成18年度

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
11. 「切実な学びの中で確かな金銭感覚を育てる」	1997年現在に至る	地域の自然環境や生活文化の知恵に学ぶ環境教育を進め、地域への愛着を育む教育を展開。第7回、第8回全国環境教育賞奨励賞受賞（初草大好き地域に学ぶ環境学習）「こどもエコクラブ」の壁新聞等にまとめて全国大会に出席。学校版環境ISOを中心とした環境教育を展開。文部科学省環境教育実践モデル地域の指定を受けとして地域との連携を目指した環境教育推進。学校版ISOの取り組みで、「コカコーラ環境教育賞（コカコーラ教育・環境財団）」受賞：平成20年度 「環境美化教育環境大臣賞（社団法人食品容器環境美化協会）」受賞：平成20年度
2 作成した教科書、教材		
1. SDGs Handbook2023	2023年3月	大阪市内の小学生を対象とした副読本「舞洲SDGsハンドブック」を作成。
2. 食品ロスとSDGsを学ぶ教材	2022年4月1日	食の循環の過程を通して働く人やSDGsへの視野を広げ、食品ロス削減について主体的・対話的で深い学びを実現することを意図した教材。
3. 兵庫県教育委員会 食育ハンドブック高等学校版	2022年3月	兵庫県教育委員会において、高等学校における食育推進を図るために、教職員用「食育ハンドブック 高等学校版」を食育ハンドブックを作成した。
4. 新しい食育小学校Ⅱ 全国学校栄養士協議会	2022年2月	2017年告示の学習指導要領に基づいて、教科・領域等と食育の親和性を踏まえた効果的な食育指導の在り方について解説した。（p8～p13）
5. 農林水産省 和食文化継承のための教材実践事例集	2020年10月	保育所等や小学校での和食文化を伝える食育実践を支援するために作成。乳幼児期から学童期までの発育・発達段階に応じた豊かな食の体験や主体的・対話的で深い学びを実現する手立てを盛り込む。
6. 港区学校教育食育推進指針を教える学校教育教本 中学校版 監修	2020年3月	
7. 兵庫県教育委員会 食育ハンドブック中学校版	2020年3月	兵庫県教育委員会において、中学校における食育推進を図るために、教職員用「食育ハンドブック 中学校版」を作成した。学校でどのように食育を進めて行けばよいかを具体的に示すとともに、教職員が具体的な授業イメージを持って食育に取り組めるよう、各教科等の中で実践できる「食育事例」を多く紹介した。
8. 大阪ガス小学校向け食育教材 『「いただきます」ではじめよう！なぜ？なに？食育Book』	2019年9月1日	
9. 港区学校教育食育推進指針を教える学校教育教本 監修	2019年9月	
10. 京都府教育委員会家庭教育資料「みんなで食を楽しもう」	2019年4月1日	京都府教育委員会にて子育て中の保護者を支援する取組として作成。
11. 給食時間の5分間指導 食育早わかり図鑑 第2巻-旬の魚+肉・だし・給食指導など	2016年08月01日	
12. 文部科学省 小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」	2016年2月	文部科学省において、食事の重要性や望ましい生活習慣の必要性などについて、各教科・領域や給食の時間の中で学習することを目的に小学生用食育教材「たのしい食事つながる食育」を作成（理科・生活科の事例を担当）した。
13. 給食時間の5分間指導 食育早わかり図鑑	2015年06月01日	
14. 教育ファーム 学校教材	2014年12月25日	
15. 啓林館理科教科書「わくわく理科3～6」	2014年3月7日～現在	啓林館理科教科書「わくわく理科3～6」審議委員。
16. 啓林館小学校教科書「わくわくせいかつ・いきいきせいかつ」指導書	2014年3月～現在	啓林館生活科教科書「わくわくせいかつ」「いきいきせいかつ」指導書編集委員。
17. 啓林館生活科教科書「わくわくせいかつ」「いきいきせいかつ」	2014年2月21日～現在	啓林館生活科教科書「わくわくせいかつ」「いきいきせいかつ」編集委員。
18. 兵庫県教育委員会 食育ハンドブック	2013年3月	兵庫県教育委員会において、小学校における食育推進を図るために、教職員用「食育ハンドブック 小学校

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
19. 教師を目指す人のための教育方法・技術論 20. 文部科学省 食に関する指導の手引ー第1次改訂版ー 21. 農林中金「農業とわたしのたちの暮らし」	2012年04月16日 2010年3月 2009年3月	版」を作成した。 JAバンクにおいて、食や農にかかわる教材集ならびに指導事例を制作し、JAを通じて全国の小学校5年生に寄贈した。小学校教育課程での農業体験の導入を促進し、農業および食糧生産の現状、農業のもつ多面的な機能や栽培活動の重要性についての理解を深めることに貢献した。

3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 大阪市大大学 非常勤講師（総合的な学習の時間） 2. 大阪市立大学大学院非常勤講師（食育）	2018年9月 2017年9月	食にかかわる多様な問題に対処するため、学校教育における食育実践のあり方と進め方について講義。教科等と食育の親和性に基づく全体計画の立案、評価・改善、教科等横断的な指導の実際について講義。 各教科や領域等における食育実践、学校給食を生きた教材とした食育授業の構想と実践について紹介。スーパー食育スクールの事例と成果、小学生用食育教材の提案する内容や食育における「主体的・対話的で深い学び」について紹介。 食にかかわる多様な問題に対処するため、学校教育における食育実践のあり方と進め方について講義。教科等と食育の親和性に基づく全体計画の立案、評価・改善、教科等横断的な指導の実際について講義。 明日の授業で使える理科・生活科と自然体験活動のネタ&コツ 身近な自然や日常生活での素材をもとにしたものづくりや実験を行った。カエデやニワウルシなどの種子散布をクラフトで再現したり、台所にある日用品を使った調理の化学を体験したりしながら、子どもたちの「センス・オブ・ワンダー」を育むポイントについて解説した。 学習指導要領に示された「生活科」について内容やその趣旨、指導法について理論的に述べる。児童の興味・関心等に基づく学習、カリキュラム・マネジメントなど創意工夫を生かした教育活動の展開に必要な資質を身につける。その上で、生活科の計画・実施・評価プロセスについて理解を深める。
3. 大阪市立大学 教員免許状更新講習（食育）	2017年8月～現在	
4. 兵庫教育大学大学院 非常勤講師（食育）	2017年4月～現在	
5. 教員免許状更新講習（理科・生活科）	2014年08月～現在	
6. 神戸常磐大学 非常勤講師 生活科	2014年4月から2016年3月	
4 その他		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		
1. 日本生活科・総合的学習教育学会 学会賞 2. 「金融教育を考える」第3回小論文コンクール特賞 3. 第50回読売教育賞最優秀賞受賞	2009年3月 2006年12月 2001年7月	「総合的な学習の時間における協同的な学び」 「切実な学びの中で確かな金銭感覚を育てる」 「自然環境と暮らしの知恵にかかわり地域と創る学習」

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. 和食と学校教育	共	2021年11月	日本栄養士会『日本栄養士会雑誌』	学校教育において和食を伝える場として、各教科等の授業での可能性を食育との親和性と教科固有の見方・考え方から実践を交えて論

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
2. 科学することの面白さを伝える授業づくり	共	2021年4月1日	第64号 11月号 ぎょうせい 新教育ライブラリVol. 6	述した。 有能な学び手としての子ども観に立った理科の授業づくりを「実験をデザインする資質・能力育成」「多様性を生かしての対話的な学び」の視点から論述した。
3. 次代を創る「資質・能力」を育む学校づくり 第2巻	共	2017年 8月	ぎょうせい	吉富芳正、奥村高明、高木展郎、藤本勇二 新教育課程に向けた「学校づくり」を「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」「主体的・対話的で深い学び」等から分析。学校経営全体を視野において、各課題についてそのポイントや方策を解説。 執筆：「社会に開かれた教育課程」を実現する単元構想
4. 中教審答申を読む 2	共	2017年 8月	ぎょうせい	石井英真、野口徹、藤本勇二 中央教育審議会答申と新学習指導要領に基づいた、日々の学校づくり・授業づくりに解説。 (担当部分概要) pp. 30-33。 「主体的・対話的で深い学びを構想する教材研究」
5. 女性教師の実践からこれからの教育を考える!	共	2017年05月22日	学事出版	多賀一郎、小倉美佐枝、近藤千尋、藤本勇二 女性教師の実践からこれからの教育を考え、新しい学校教育の在り方を提案。 執筆：女性教師たちを送り出して
6. アクティブ・ラーニングと環境教育	共	2016年06月15日	編/日本環境教育学会	環境教育において重視されてきた学習者中心の参加体験型の活動を課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学ぶアクティブ・ラーニングに生かす事例を紹介。
7. 学校現場で考える「育成すべき資質・能力」	共	2016年2月25日	ぎょうせい	市川伸一、村川雅弘、角屋重樹、藤本勇二 小学校学習指導要領の改訂における「育成すべき資質・能力」について解説。 (担当部分概要) pp. 84-87。 「子どもたちから思いや経験を引き出す授業を創る」
8. 入門 食育実践集	単	2015年10月15日	全国学校給食協会	様々な教科等と関連した食育実践の授業例を掲載した入門書。
9. 子どものくらしを支える教師と子どもの関係づくり	共	2014年08月	ぎょうせいシリーズ 新しい学びの潮流 3	藤本勇二、上岡 学、野口 徹 教室で子どもと学校生活をつくるために、「教室の文化づくり」「学校の文化づくり」「学びをつくる気付き」等について解説。子どもの育ちを支える教師の在り方についても解説。
10. 伸びる食育・牛乳編	共	2013年10月01日	一般社団法人Jミルク	田中博之、児玉博子、長島美保子、藤本勇二 栄養教諭・学校栄養職員を対象に「乳」をテーマとした食育プログラムや教材等を掲載している。 (構成協力)
11. 食の授業アイデア集	単	2012年8月	全国学校給食協会	著者が実際に行った授業例をもとに、食を教材として、様々な教科やクラスで活用できるワークショップのアイデア(手法)を「遊び」「つくる」「調べる」「比べる」「気づく」「まとめる」と6つのテーマに分けてまとめた。
12. 教師を目指す人のための教育方法・技術論	共	2012年04月16日	学芸図書	小野賢太郎、小柳和喜雄、藤本勇二 教育の方法や評価の概念を解説し、学校現場での実践にかかわる人の入門書として構成した。 (担当部分概要) pp. 63-83 小学校での教育活動について執筆。
13. 文部科学省「食に関する指導の手引き」	共	2010年	文部科学省	食に関する指導の充実に取り組み、また、学校における食育の生きた教材となる学校給食の充実を図るため、食に関する指導の手引書として作成。食に関する全体計画、学教科等や給食の時間における食に関する指導の基本的な考え方や指導方法について改正学校給食法を踏まえて解説。(担当部分概要) pp. 66~82
14. 学級担任のための食育の授業	単	2009年	ひまわり社	生活科をはじめとする諸教科において学級担任による食育指導の手法を具体的に分析、提案した。特に、食育に関する子どもたちの興味・関心を高めながら、望ましい食生活習慣を育てていく授業作りの視点を重視すると共に、生活科における栽培活動を踏まえながら、「旬の野菜を食べよう(学活)」、「野菜のどこを食べているのかな」(理科)など、学級担任が家庭科・理科・社会・国語・学活などの時間でできる授業を紹介した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
15. 小学校学習指導要領の解説と展開 総合的な学習編	共	2008年	教育出版社	<p>奈須正裕、藤本勇二、久野 弘幸</p> <p>平成20年3月に改訂告示された小学校学習指導要領の改訂のポイントを解説。新学習指導要領に基づく指導計画の作成例・授業の展開例や「確かな学力」「思考力・判断力・表現力」「習得・活用・探究」「言語活動の充実」など、今次改訂のキーポイントについて解説するとともに授業改善の手立てを具体的に提示している。</p> <p>(担当部分概要) pp. 94-119.</p> <p>「子どもの興味・関心を大切に学ぶ」「地域教材の開発のポイント」等授業改善のポイント。pp. 148 -179. 新学習指導要領に基づく単元の展開例。</p>
16. 学びを深める食育ハンドブック	共	2005年	学習研究社	<p>奈須正裕、藤本勇二</p> <p>生活科・総合的な学習の時間で取り上げる題材の可能性の検討や活動例のアイデアなど、これまで触れられることの少なかった教材研究と単元開発の視点などから丁寧に取り上げた。とりわけ、生活科における栽培活動に着目し、継続的な栽培活動を支援するカリキュラム・プランニングと体験だけに終わらず学びを深めていく手法を具体的な事例を通して提案している。</p> <p>(担当部分概要) p. 38. 理科が担う役割。pp. 42-43. 学校給食が担う役割。pp. 54-120. 教材としての可能性を題材ごとにウェビングで提示。pp. 132-133. 各学年での単元計画例と都市・農村・山間部と立地条件の異なる学校を例にした年間計画。pp. 136-142. 食育を支えるマンパワー。</p>
17. 環境教育指導資料 (小学校編)	共	2004年	国立教育政策研究所教育課程研究センター	<p>環境教育に関する国際的な動向や今日的な課題も踏まえ、持続可能な社会を構築するために必要な考え方や取組等についての総合的な解説、環境教育の基本的な考え方や指導展開等の解説、各教科等における実践事例を紹介。</p> <p>(担当部分概要)</p> <p>pp. 58-61 家庭科における実践事例執筆。</p> <p>pp. 70-73 総合的な学習の時間における実践事例執筆。</p> <p>pp. 86-89 家庭科や地域と連携を図った実践事例執筆。</p>
2 学位論文				
1. 実験、観察形態の理科学習に及ぼす効果の実証的研究 (修士論文)	単	1997年	鳴門教育大学	<p>個別の観察・実験の学習形態を取り入れた理科学習において、認知的側面・情意的側面・技能的側面からの学習効果の検討を行った。実験器具を一人に1台付与することで学習を個別化することにより、情意面では自主性や主体性、責任感や集中度、満足感や成就感など、認知面では数量的なとらえ方など、技能面では適切な操作と正確な測定などの学習効果が確認された。さらに、個別の観察・実験を可能にする実験器具として「簡易ガスビューレット」を開発し、これを用いて教材を中心とした理科、算数科、家庭科等との連携の有効性を検討した。</p>
3 学術論文				
1. 授業 UD と協働による小学校理科の授業改善-探究し続ける児童の育成を目指して-(査読付)	共	2023年3月31日	教育学研究論集 巻18 pp.86 - 93	<p>中西徳久、藤本勇二</p> <p>本研究の目的は、小学校5年生、6年生の理科授業を授業 UD と協働の視点で単元開発・実践を行い、児童の意識の変化や当該単元で学んだことを活用して問題解決ができるのかどうかを検討することである。小学校5年生「植物の発芽と成長」、6年生「ものが燃えるとき」の単元において児童の学びを質問紙及び OPPA により分析した。その結果、児童の問題解決の道筋に授業 UD、協働的な学習、OPPA を取り入れることによって、学習がより深い学びになっていくことが示唆された。</p>
2. 大学3年生前期に開講される理科教育法とその他の教科教育法との連携 -学生アンケートと学習指導要領の分析から-	共	2023年3月31日	武庫川女子大学 学校教育センター 紀要 第8号 pp.71 -84	<p>藤本勇二、金子健治</p> <p>教育学部3年生前期の理科教育法と開講期を同じくするその他の教育法(生活科・算数科・国語科・社会科)において、理科教育法を受講する学生の教科等の連携に関する意識を検討することである。教科横断的な視点からの学習指導要領解説及び先行研究を検討し、各教科教育法を受講した学生の意識を分析した。その結果、算数科</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
(査読付)				
3. 子供が学びの主体となる「子供がつくる授業」における教師の支援 (査読付)	共	2023年3月20日	日本個性化教育学会『個性化教育研究』第14号 pp. 24-36	<p>教育法、国語科教育法において、教科横断的な指導への意識の変容が確認できた。</p> <p>松井香奈、藤本勇二</p> <p>子供が学びの主体となる授業の姿とそれを支える教師の指導の在り方を、5生社会科と6年生社会科の授業をもとに検討した。その結果、自己決定を支える教材研究、個に応じた教師の出のための見取り、継続的な指導の過程で子供が授業をつくることの重要性が明らかになった。</p>
4. 小学校での昆布ロードをテーマにした交流学习の実践－学校給食とICTでつなぐ－ (査読付)	共	2022年12月25日	一般社団法人日本家政学会食文化研究部会	<p>藤本勇二、玉城恵子、小笠原有沙</p> <p>小学校において伝統的な和食文化への理解を深めることを目的に昆布を教材として取り上げ、二人の栄養教諭が北海道と沖縄県の2つの小学校の交流を学校給食とICTを活用して支援した。オンラインと食べる体験を重ねる交流学习の形の有効性と共に昆布や地域にある食べ物、昔から食べられている食べ物を大切に思う気持ちの高まりが確認でき、伝統的な和食文化への理解を深めることができた。</p>
5. 保育者養成課程に所属する学生が子どもに飼育させたい生き物とその理由－学生の自由記述分析－ (査読付)	共	2022年3月	武庫川女子大学学校教育センター紀要 第7号	<p>鶴 宏史、藤本 勇二、岡田 朱世</p> <p>本研究の目的は、保育者養成課程に所属する学生が子どもに飼育させたいと考える生き物が何か、そしてその意図を明らかにすることである。学生が子どもに飼育させたい生き物は 25 種類で多い順にウサギ、チョウとカブトムシ、カエルであり、生物の分類で整理すると多い順に節足動物(昆虫類)、哺乳類、両生類であった。その生物を選択した理由は 20 に分類でき、多い順に「子どもでも容易に飼育できるから」、「成長の過程・変化を見ることが出来る生き物だから」、「生命そのものや生命の尊さを実感したり学んだりできるから」、「子どもに危険がなく安全だから」であった。理由は、主に領域・環境のねらいと内容に関わるもので他に領域・人間関係や養護のねらいと内容に関するものがみられた。</p>
6. 話し合い活動を充実する黒板スピーチの取組 (査読付)	共	2021年3月15日	日本個性化教育学会『個性化教育研究』第12号	<p>松井香奈、藤本勇二</p> <p>日常的な話し合い活動の場を特別活動の時間である朝の会でのスピーチ(黒板スピーチ)に求め、小学校1年と6年生の実践をもとに検討した。その結果、学級づくりや授業づくりでの黒板スピーチの効果が明らかになった。「5. 成果」について執筆。</p>
7. 幼稚園・保育所における野菜栽培活動現状－栽培活動と食育の関連－	共	2020年9月30日	『頌栄短期大学保育者養成教育実践論叢』第6号	<p>本研究の目的は、幼稚園や保育所での野菜栽培の栽培状況、活動状況、食育との関連について明らかにすることである。3つの幼稚園・保育所を対象に質問紙調査及びインタビュー調査を実施した。結果、栽培されている野菜は15種類で、選択理由は「野菜の生長を知るため」「身近な野菜であるため」「苦手な野菜を食べたいと思うように」などが挙げられた。また、子どもが関わる栽培活動としては「収穫」「種まき・苗まき」「水やり」が多くを占めた。収穫した野菜の用途はほとんどが「食べる」で、給食への影響としては「嫌いな野菜を食べるようになった」が多かった。また、野菜栽培は、直接的には領域・環境のねらいや内容に関わるが、食育と関連させることで領域・健康に、栽培活動の役割分担では領域・人間関係が関係した。今後の課題として、果物なども対象にした調査の実施、大規模な調査の実施、小学校における栽培活動の関連の明確化が挙げられた。(11～18頁)(鶴宏史・岡田朱世・藤本勇二)</p>
8. 仲間との関わりの中で個を育てる黒板スピーチ(査読付)	共	2020年3月11日	日本個性化教育学会、『個性化教育研究』第11号、24-34頁	<p>松井香奈、藤本勇二</p> <p>小学校6年において、黒板スピーチ(朝の会で児童のスピーチ記録を黒板に板書する活動)を取り入れた結果、話し合い活動を充実し、自分のクラスへの愛着を高め、児童が自他のよさに気付くことができた。</p>
9. 生活科における資質・能力の育成を目指した飼育活動～1年生「きたろくこんちゅうかんをつくろう」の実践～(査読付)	共	2020年3月11日	日本個性化教育学会、『個性化教育研究』第11号、35-46頁	<p>田中咲也子、藤本勇二</p> <p>年生生活科「きたろくこんちゅうかんをつくろう」の実践において、(1)思いや願いを育て、対象を自分事にする、(2)児童同士がつながり、伝え合う場をつくる、(3)繰り返し体験と表現を行き来する、の手立てを取り入れた。実践の結果、気付きの質を高め、資質・能力を育成することができた。</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
10. 生き物の飼育における保育者の意図と教育効果－幼稚園・保育所への質問紙調査を通して－（査読付き）	共	2020年3月	武庫川女子大学 学校教育センター 紀要第5号pp. 51-60	鶴 宏史、藤本勇二、岡田朱世 幼稚園や保育所での生き物の飼育状況、保育者が生き物を飼育する意図、飼育による教育効果を調査した結果、飼育の状況や子どもへの教育効果等の分析を通じて、これらは、領域・環境および領域・人間関係のねらいや内容が反映されていることが明らかになった。
11. 生活科における深い学びの実現をめざして－栽培とおもちゃづくりの事例分析から－（査読付）	共	2019年3月	武庫川女子大学 学校教育センター 紀要 第4号pp. 57-68	藤本勇二、藤池陽太郎、松井香奈 1年生「サツマイモ栽培」、2年生「おもちゃづくり」の単元において、生活科において「深い学び」を実現する手立てを検討した。その結果、「『環境』を通して児童の思いや願いを育てる」、「児童の思いを出し、つながる場をつくる」、「児童にとって必然性のある振り返りを行う」、の手立てが有効であることが明らかになった。
12. 「深い学び」に届く生活科授業の実践－小学校2年生「おもちゃづくり」を通して－（査読付）	共	2019年2月 21日	日本個性化教育学会、『個性化教育研究』第10号、49-59頁	松井香奈、藤本勇二 2年生「おもちゃづくり」の単元において、「体験活動と表現活動とが豊かに行き来する個と全体の相互作用」の質を高めることを通じて「深い学び」に届く生活科授業を構想した。実践の結果、「思いや願いが気付きの質を高めること」、「思いを共有し、気付きの質を高めること」、「必然性のある振り返りが気付きの質を高めること」が明らかとなった。
13. 総合的な学習の時間における主体性を育む方策の検討～深い学びの実現を目指して～（査読付）	共	2019年2月 21日	日本個性化教育学会、『個性化教育研究』第10号、39-48頁	箱根正斉、藤本勇二 主体的・対話的で深い学びを実現するための手立てを第5年生「北六米っこ物語」の事例をもとに検討した。その結果、「日常生活に根ざした探究課題の設定の価値」、「有能な学び手として発揮させる探究的な学びのプロセス」、「対話による深い学びの実現」等が有効であることが明らかになった。
14. 資質・能力を育成する総合的な学習の時間の創造－「北六自然パーク～地域・人・学校のふれあう場所へ～」の実践－（査読付）	共	2018年3月 10日	日本個性化教育学会、『個性化教育研究』第9号、2-12頁	箱根正斉、藤本勇二 資質・能力を育成するための有効な指導方法を明らかにすることを目的として、小学校3年生における総合的な学習の時間「北六自然パーク～地域・人・学校のふれあう場所へ～」の実践をもとに検討。その結果、教材の選定、E S Dの視点、教科関連の構築を充実させることが資質・能力の育成につながる事が明らかになった。
15. 理科指導法において「授業UD」に基づく授業改善の試み（査読付）	共	2018年2月	武庫川女子大学 学校教育センター 紀要 第3号pp. 97-106	藤本勇二、中西徳久 野口大介、松井香奈 理科指導法での授業分析において、授業UDを取り入れ、理科の授業力量に関する学びの実態や課題について検討を行い、効果的な指導法を探った。学生のアンケートと振り返りの分析を行なった結果、授業UDの視点を授業に取り入れることによって、教師が授業改善を行う手立てとなる事が明らかとなった。教師の力量形成における授業UDの意味は大変大きいと考える。
16. 小学校教員養成における理科カリキュラムの再検討（査読付）	共	2013年03月 22日	教育学研究論集 巻8 31 - 36	金子健治、藤本勇二 理科を教えることができる小学校教員養成のための教育カリキュラムを構築するために、そのための到達目標や確認指標から現在実施されている理科カリキュラムを検証し、改善の方向性を明らかにした。その結果、現在実施されているカリキュラムに大幅な修正を加える必要はないが、それぞれの到達目標が本当に達成されたかどうかを確認するために具体的な手立ては今後検討していく必要があることがわかった。
17. 理科指導法における模擬授業の実践と評価（査読付）	共	2013年03月 22日	教育学研究論集巻 8 pp. 37 - 42	藤本勇二、金子健治 模擬授業の実践を通して、学生が授業観察の視点を深めることができたかどうかを明らかにした。その結果、次の二つのことが分かった。(1) 教師の振る舞いについて指摘する数は減り、教授について指摘する割合が顕著に増加した。小学校教育全般に対する指摘は減少し、理科授業全般や単元固有のことについて指摘する数が増加した。(2) 理科の授業ができるポイントを見つけることができたことと評価藤本勇二する学生は99 パーセントに達した。
18. 学びを深めるための交流学習の在り方（査読付）	単	2010年10月 15日	日本個性化教育学会、『個性化教育研究』第2号、22-	交流学習を成立させる実践上の工夫を明らかにすることを目的として、「食」を教材に取り上げて実践した。その結果、「主体的な学習活動の展開」「交流活動の必然性の吟味」「教師間の連携」の3つの

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
19. 総合的な学習の時間における自律的・創造的な学び（査読付）	単	2009年	日本個性化教育学会、『個性化教育研究』第1号、14-23頁	視点からの手立てが必要となることが明らかになった。また、交流学習を成立させる「食」の教材の価値についても知見を得ることができた。 教師が自律的・創造的な学びを自覚し、授業の実際に即して具現化することで、他者の生き方を自己の生き方や将来の姿と重ね合わせ、学習を生き方にまで深めていくことができる。そこで、「自律的・創造的な学び」を育むための実践上の工夫を6年生の「自己資金で科学の祭典を開催しよう」の事例を通して、具体的に検討した。その結果、「学習活動の目的を自覚させること」、「テーマと学習活動の必然性を吟味すること」、「学ぶ意欲を高める多様な支援を行うこと」の3点から「学習活動の主体としての意識」を持たせることが、自律的・創造的な学びには不可欠であることが明らかとなった。
20. 交流学習が支援する食育（査読付）	単	2009年	日本食育学会、『日本食育学会誌』、第3巻第2号、105- 109頁	3つの学校で、みそ汁の食材や食材の感想・みそ汁を作った記録などを交換する交流学習を実施。実践の結果、「栄養バランスと朝食の大切さ」「地域の食材や旬のよさ」「自分の食生活の変化」「食文化への理解」「地域への関心」の5つの成果が明らかになった。食材の物々交換等による交流学習を進めることによって、望ましい食生活習慣の形成や地域への関心を高めることができること、みそ汁のように誰でもが話題にすることができ、またその共通体験を持っている上に、共通性と地域での違いという地域性を併せ持つ料理を取り上げて交流学習が食育を支援できることが明らかになった。
21. 総合的な学習の時間における協同的な学び（査読付）	単	2009年	日本生活科・総合的学習教育学会『せいかつか&そうごう』、第16号、28- 35頁	協同的な学びの対象と価値を明らかにした上で、生活科の栽培活動につながる総合的な学習の時間の「きゅーきよくの桜もちを作る」の事例を通して、協同的な学びを深める手立てについて検討した。教材の構造（食にかかわる多様な価値観が存在する教材）、他者との協同の切実感を引き出す支援（協同する場面を学習過程に位置付けること、個々の子どもたちの持つ問題意識を互いに交流する仕方を工夫すること、問いが繰り返されるような教師の働きかけ）、多様な他者との出会いの場作り（多様な他者との出会いによって実現される価値を判断し、適切な他者と適切なタイミングで出会わせること）の3つの視点から、授業の実際に即して具現化することの重要性を明らかにした。
22. 棚田に学ぶ子どもたち-地域にかかわり自ら学ぶ子どもの育成-	単	2003年	日本環境教育学会『環境教育』Vol. 12、NO.2、53- 61頁	棚田を取り上げた4年生の1年間の実践を学びの履歴のポートフォリオとウエビングマップの変容によって分析した。自然環境への関心や環境と人間のかかわりへの認識の高まりを確認できた。さらに、棚田を取り上げることの教材としてのよさが以下のように明らかになった。1) 地域を見ていく切り口となる教材としての役割（棚田を通して環境、暮らし、農業、歴史、人のかかわりが見えてくる。2) 地域を知り、そのよさが分かり、地域にかかわっていこうとする学習活動を構成する。3) 棚田のもつ多面的な機能を理解する過程で問題解決する能力や総合的な認識力を育てる。
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. トマトとの関わりの中で自分の成長を願う子どもの育ち	共	2023年8月6日	日本個性化教育学会第 16回大会	2年生生活科において、伝え合いに着目し、同じ時に共有するのではなく、緩やかな共有とその子が必要な時に共有を行うことが、気付きの質を高めることを事例をもとに提案した。
2. 個の探究と協働的な学びの在り方 -第6 学年総合学習「バス DGsを実現しよう」の実践より-	共	2023年6月18日	日本生活科・総合的学習教育学会第42回大会神奈川大会	6年生総合的な学習の時間において、本気（子供の自己決定）、本物（地域の人・もの・課題）、本音（個の探究を支える協働的な学び）の3つの視点から個が探究するための手立てを検討した。
3. 生活科における「学習の調整」-実践からの分析-	共	2023年6月18日	日本生活科・総合的学習教育学会第42回大会神奈川大会	生活科における学習の調整のための、児童が思いや願いを出し合い、互に見えるようにする、児童にとって必然性があり、多様な方法で振り返りを行う、児童が思いや願いから学びを広げていくことを待つ、の3点を提案した。

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
4. 伝統野菜スイゼンジナを教材としたSDGsの実現 - 中学校総合におけるICTと栄養教諭による支援 -	共	2023年6月18日	日本生活科・総合的学習教育学会第42回大会神奈川大会	食文化についての課題を踏まえ、栄養教諭が中心となって策定する総合的な学習の時間のカリキュラム開発と授業実践について報告した。
5. 授業UDによる4年生「月と星」の授業改善	共	2022年12月7日	令和4年度日本理科教育学会四国支部大会	授業実践から指導が困難とされている4年生理科「月と星」の指導における課題を見出し、効果的な手立てを見出すことICTの活用、教科横断的な指導、視覚支援の成果が確認できた。
6. 雑草の教材化と4年生「季節と生物」における実践	共	2022年11月5日	2022年度日本理科教育学会近畿支部大会	雑草を教材化した授業実践の内容を検討するために第4学年「季節と生物」単元で雑草を教材化し、授業実践によりその有用性を検証するとして学習者である児童が主体となり観察への動機づけが自然に生まれ、探究的な活動を通して「問い」が引き出される。探究的な活動の過程で理科の内容や観察の道具の意味が学ばれる、等の可能性が確認できた。
7. 探究的な学習における「名前を知らない校庭の雑草」の利用	共	2022年11月5日	2022年度日本理科教育学会近畿支部大会	校庭の雑草の教材としての価値と課題を明らかにし、雑草の名前が知らない教員が力を発揮できる教育プログラムの開発と提案を行った。
8. 北六竹取物語～地域に根ざした教育課程を目指して～	共	2022年6月25日	日本生活科・総合的学習教育学会第31回全国大会広島・三原大会	
9. 総合的な学習の時間におけるエコフィードを取り上げた授業実践の可能性	共	2022年6月25日	日本生活科・総合的学習教育学会第31回全国大会広島・三原大会	
10. 思いや願いを実現する中で気付きの質を高める生活科の授業	共	2022年6月25日	日本生活科・総合的学習教育学会第31回全国大会広島・三原大会	
11. 生活科における個別最適な学びの実現ー「野菜元気2年1組GOGOGO！」の実践よりー	共	2022年6月25日	日本生活科・総合的学習教育学会第31回全国大会広島・三原大会	
12. 持続可能な消費を考える6年生家庭科 - エコパックとOPPを取り入れて -	共	2022年2月5日	日本ESD学会第4回全国大会	小学校6年生家庭科「生活に役立つ物の制作」において、Tシャツの選択、エコパックの制作を取り入れる単元を開発し、自分たちに何ができるか考え、行動ができる授業実践の成果が得られたかを検討した。(1)責任ある行動の視点から、多様な視点から購入を考えること、購入に際しての環境への配慮、行動化への自覚、Tシャツを通して商品の背景にも関心を高めたことが確認できた。
13. 朝の会における黒板スピーチを通じた個の見取りと変容	共	2019年8月10日	日本個性化教育学会第12回大会	「有能な学び手」としての子ども観に立ち、子どもたちが本来もっている資質・能力を發揮させるために、(1)個の願いや思い、よさを見取る場をつくる、(2)子どもと子どもがつながる場をつくる、(3)子どもが生活をつくっていく自覚を育てる、の3つの手立てで取り組んだ。それを実現する場として6年生の朝の会に「黒板スピーチ」を取り入れた。実践の結果、一人一人の思いや願いを共有することで、クラスの仲間と繋がり、自分を見つめ直していくことができた。
14. 問いを見つけ、主体的に学ぶ乳の授業づくりの検討ー文化的・社会的視点からの教材開発を通してー	共	2019年6月22日	日本食育学会第14回大会	乳の文化的・社会的視点から教材開発を行い、小学生が問いを見つけ、主体的に学ぶ乳の授業づくりを検討した。授業実践の結果、授業づくりに参画し、小学生の授業での変容を目の当たりにした学生は、酪農乳業の授業を実践する意欲を高めただけでなく、質の高い授業を構想・実践するための手立てを手に入れることができた。
15. 総合的な学習の時間における身近な課題解決からSDGsへー小学校5年生「北	共	2018年8月19日	日本ESD学会第1回全国大会	食品ロス削減を取り上げた「北六米っこ物語」の実践の結果、子どもたちの切実な問いが身近な課題解決につながり、質の高い課題解決を実現することで食品ロスを自分事と捉えることができた。子どもにとっての課題を解決する過程を通して、食品ロスや地域農業の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
六米っこ物語」の実践よりー				課題、食料自給率、食品アレルギー等の現代社会の課題に Auseaweru koto ga dekita. Target 12.3 no teikin ni atatama wa, "Goal 4 (Education)" no target 4.7 no suishin o sujite, hitohito ga chokushikano kaihou o suishin suru tame no chikaku to sushiru o hakudoku suru koto no juyaku ga kaitete kakudoketa.
16. 深い学びの実現を目指した主体性を引き出す方策の検討	共	2018年8月11日	日本個性化教育学会 第11回全国大会	これからの時代に求められる資質・能力を育成するために、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善が喫緊の課題となっている。主体的・対話的で深い学びを実現するための子どもの主体的な学びの姿とそれを引き出す手立てを明らかにするために、第5学年における「北六米っこ物語」の実践をもとに検討した。(1)「見通し→活動→振り返り」を意識した体験活動、(2)主体性を表出させる探究的な学びのプロセス、(3)探究課題の設定が有効となること が明らかになった。
17. 『聴き合う』授業づくりで学級集団と学力を育てるー「自分が分かる」から「みんなが分かる」ことに価値を見出す学級集団にー	共	2018年8月11日	日本個性化教育学会 第11回全国大会	「聴き合う」授業づくりで、友達と関わり合いながら学ぶ温かい学級集団づくりを目指して、道徳を中核とした「宮澤賢治学習」等、「自分たちの手で学級を良くしている」という実感をもてるように取り組んだ。実践の結果、QUでは4人中3人の承認得点が上昇し、満足群になった。また、NRT学力テストでは特に算数科で学力の向上が見られた。「聴き合う」活動を大切にしたい宮澤賢治が教科の学力向上にも有効に働くことが確認できた。
18. 総合的な学習の時間におけるESDを通した「資質・能力」育成の検討	単	2018年8月11日	日本個性化教育学会 第11回全国大会	小学校3年生が生き物に関わった2つの事例を検討した。その結果、ESDの視点を取り入れることにより、育成すべき資質・能力を明確にすることが可能となり、学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養につながることを確認できた。さらに、総合と各教科等の取組を互いに結び付けた効果的なカリキュラム・マネジメントの構想・運用に貢献することが期待できる知見を得ることができた。
19. 個のよさを生かし、互いに高め合うおもちゃづくり	共	2018年8月11日	日本個性化教育学会 第11回全国大会	子どもが主体性を発揮できる授業づくりの在り方を明らかにすることを目的とした。(1)子どもの生活から立ち上げる(2)子どもの思いを出し、つながる場をつくる(3)子どもの思いを育てるの3つの手立てから生活科の授業を捉え直すことによって、子どもの主体的な学びが成立し、気付きを深めることができた。
20. 子どもたちの願いや思いを生み出す環境を通して行う生活科の授業づくり	共	2018年6月16日	日本生活科・総合的学習教育学会第27回北海道大会	「環境」を通して行われる幼児期の遊びを生活科の学習に生かす授業づくりに取り組んだ。子どもたちが思いや願いを生み出す「環境」として、子どもたちがサツマイモに起こる様々な「課題」に出会うことの有効性を検討した。その結果、子どもたちに様々な「課題」と Auseaweru koto de renshusei no aru sushiru ga chokushikano kaihou o suishin suru tame no chikaku to sushiru o hakudoku suru koto no juyaku ga kaitete kakudoketa.
21. 道徳・国語科・社会科とのつながりを意識したカリキュラム開発	共	2018年6月16日	日本生活科・総合的学習教育学会第27回北海道大会	本研究では、探究過程の中で各教科等との関連を図り、その季節らしい地域の食文化や食材を調べる活動では社会科と関連させ、そこで調べた内容を国語科と関連させてプレゼンさせた。それぞれの活動の後には「今の自分にとっての『ごちそう』とは」というテーマで意見文を書かせた。文章構成の仕方や聴き取った情報の生かし方などを教科と関連させながら自分の意見を形成できるようにした。その結果、経験や知識から考えて表現し、これからの自分と食との在り方を考えることのできる学びが実現できた。
22. ESDを通した総合的な学習の時間における「資質・能力」育成の検討ー小学校3年生が生き物に関わった2つの事例からー	共	2018年6月16日	日本生活科・総合的学習教育学会第27回北海道大会	小学校3年生での2つの実践の結果、ESDの視点を取り入れることにより、資質・能力を明確にすることが可能となり、あわせて育成すべき資質・能力を育てることにつながることを確認できた。総合的学習をESDの視点で捉え直すことにより、持続可能な社会の構築という共通の目的を与え、総合と各教科等の取組を互いに結び付け、カリキュラム・マネジメントに貢献することが期待できる。
23. 子どもの日常からつくる生活科のおもちゃづくり	共	2018年6月16日	日本生活科・総合的学習教育学会第27回北海道大会	子どもが主体性を発揮できる授業づくりの在り方を明らかにするために、幼児期からの学びの連続性を踏まえた授業づくりを構想、実践した。その結果、子どもの主体的な学びが成立した。これは、幼児教育における遊びの中の学びを生かした取り組みともなった。
24. 小学校において「食の社会性」を取り上げることの効果ー生	共	2018年5月13日	第6回日本食育学会学術大会	小学校における「食の社会性」を取り上げた2つの授業実践の効果を検討した結果、食育の成立が確認できた。社会的な食を取り上げ、食育の対象を広くすることは、食育の担い手を増やすことにつながる

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
活科・総合的な学習の時間における2つの事例から～				
25. 資質・能力を育成する総合的な学習の時間の創造 — 「北六自然パーク～地域・人・学校のふれあう場所へ～」の実践—	共	2017年10月22日	日本個性化教育学会第10回大会	ることが期待できる。個人的な食を大切にしつつ、より守備範囲の広い食育を推進することが結果として担い手を増やしていくことになる。 資質・能力の育成のために、子どもたちに何をどのように学ばせればよいかを明らかにするために、3年生における「北六自然パーク～地域・人・学校のふれあう場所へ～」の実践をもとに検討した。研究の結果、(1)資質・能力の育成に届く教材選定の視点からは、確かな知識・技能から概念を獲得し、活用させていく力を獲得することができた。(2)ESDの視点からは、資質・能力の育成を明確にした実践が可能となった。(3)教科関連学習の視点からは、教科で培った学びを活用した生きた力へと変える学びを実現できた。
26. 理科教育における授業UDの効果 ～小学校6年生および大学理科指導法での検証	共	2017年9月16日	第3回日本授業UD学会	6年生理科「月と太陽」の単元において、授業UDの視点を理科授業に取り入れることによる学習効果を検討、合わせて大学教育学科3年生の「理科指導法」において、授業UDの視点から模擬授業の振り返りを行った。授業UDの視点が授業改善を行うための手立てを得るためには、効果的であることが明らかとなった。
27. 授業のユニバーサルデザインを取り入れた「月と太陽」の指導	共	2017年8月6日	日本理科教育学会第67回全国大会	第6学年理科「月と太陽」の単元において、授業UDの視点を理科授業に取り入れることによる学習効果を検討した。1)月の形の変化に対する理解が深まった。2)「月の満ち欠け実験器」を用いたモデル実験が理解を促進する効果が確認できた。今後、「月の満ち欠け実験器」のような「視覚化」「共有化」「焦点化」を実現する条件を備えている教材・教具の開発が必要となる。 3)主体的・対話的で深い学びに相当する「深い学び」を実現するために授業UDの視点は有効となる示唆が得られた。
28. 食育がはぐくむ住まい手・つくり手-学校栄養士との協同作業によるまちづくりの可能性-	単	2006年	『「住まい・まち学習」実践報告・論文集7』（東京）pp. 15-20	総合的な学習の時間と各教科とを相互に関連させた学際的なアプローチを通して食育がまちづくりへとつながる可能性について見いだした。地域の「食」にかかわる教材開発を協同で行うことやワークショップによる共同作業の効果を確認した。特に給食や伝統食など「食」にかかわる活動における地域の人のやり取りによって子どもたちは自分とは異なる立場の人を理解し、自信も理解されることの喜びを知り、コミュニケーションすることのおもしろさや大切さを実感できるなど、学びの継続や地域へつながる手だてを得ることができた。
29. 身近なタネの教材化と授業実践—種子散布様式に着目して—	単	2006年	日本理科教育学会第55回全国大会発表論文集（徳島）p. 294	本実践ではタネの実物、模型、その形状を活かした草花遊び、観察などの直接体験を通して種子散布の戦略やその生命力について教材化した。見る、ふれる、作る、遊ぶ、考えるという多様な活動によって種子散布様式に適応したタネの形態的特徴を理解し、身近な自然に親しみ、自然への理解を深めていくことが可能となった。追体験が容易で再現性においても優れたプログラム開発ができた。身近なタネを総合的にとらえる活動は理科を入り口にした総合的な学習・環境教育活動への提案となった。
30. 食の学びが育む住まい手・つくり手-子どもと学校から始まるまちづくり-	単	2004年	『「住まい・まち学習」実践報告・論文集5』（東京）pp. 21-24	食にかかわる学習を通して、子どもたちと学校から始まるまちづくりの可能性を検討。生活科、社会科、家庭科、総合的な学習の時間の実践を通じて、以下の効果を確認した。1)食を通して、地位にある様々な「もの」や「人」と出合う場の設定によって、地域とのかかわりが多くなった。2)地域にある「もの」や「人」と食とのかかわりについて考える機会を設定することによって、保護者の関心が高まり、地域の人の参画が増えた。3)学習成果を次年度に生かして継続・発展させ、実践の質を高めていくことによって、地域とのつながりはより緊密になる。
31. 「食」教育を通して育てる生活のリアリティ	単	2004年	第13回日本生活科・総合的学習教育学会全国大会論文集（高知）pp. 113-114	学校栄養士の食にかける熱意や食への態度を子どもたちは生き方のモデルとして学ぶ。食の現場に生きる者の生活のリアリティに出会うことにより学びを深めることが可能となる。その際に、学校栄養士のもつ専門性と担任の子ども理解を合わせることによって、より効果的な指導を行うことができる。さらに学校栄養士の地域とのネットワークや地域に根ざした学校給食の実践・食の指導の積み重ねという財産を生かして教材開発や単元創り、カリキュラム改善等の共同作業を行うことが大切となる。
32. 「食」教育を通して	単	2004年	第13回日本生活	学校栄養士の食にかける熱意や食への態度を子どもたちは生き方の

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
育てる生活のリアリティ			科・総合的学習教育学会全国大会論文集（高知） pp. 113-114	モデルとして学ぶ。食の現場に生きる者の生活のリアリティに出会うことにより学びを深めることが可能となる。その際に、学校栄養士のもつ専門性と担任の子ども理解を合わせることによって、より効果的な指導を行うことができる。さらに学校栄養士の地域とのネットワークや地域に根ざした学校給食の実践・食の指導の積み重ねという財産を生かして教材開発や単元創り、カリキュラム改善等の共同作業を行うことが大切となる。
33. 総合的な学習のカリキュラム評価と改善	単	2002年	第11回日本生活科・総合的学習教育学会全国大会論文集（茨城）	総合的な学習の学びを深めるためには、活動から価値ある学びを作ることが求められる。4年生の単元「棚田探検隊」の学習履歴を作成し、その実践を評価し、カリキュラムを改善して、次年度に「きゅーきよくの桜もちを作ろう」の単元を開発、実践。ウエビングマップ等による「教材化の戦略」と学習の進展に応じて作成した壁新聞による「学びの継続的な支援」を行った。「カリキュラムの評価・改善」「教材化の戦略」「学びの継続的な支援」の3つの手だての有効性を確認した。
34. 自然環境と暮らしの知恵にかかわり地域と創る学習ー循環する学びが住まい手・つくり手を育むー	単	2001年	『「住まい・まち学習」実践報告・論文集2』（東京） pp. 3-6	食や農の暮らしの知恵を通して子どもたちが住まい手やつくり手としての自覚を育む取り組みについて検討した。清流に息を吐くカジカガエルを通じて、自然とかわり、地域の価値を見出す学習が、食や農の教材を通して地域の自然環境や暮らしの豊かで深いつながりとひろがりをもたらす学習が可能となった。さらに、自然環境と食や農にかかわる地域の課題がつながっていること、それを明らかにしていくことが、地域を見直し地域の生活文化を継承し創造する心を育む、つまり住まい手・つくり手の自覚と地域の参画を促すことが明らかとなった。
35. 生活科におけるネイチャーゲームの導入ーネイチャーゲームを取り入れたクロスカリキュラムの開発を目指してー	単	1998年	日本環境教育学会研究発表要旨集（大阪） p. 24	本報告ではネイチャーゲームに着目し、「フィールドビンゴ」「カメラゲーム」「カモフラージュ」を生活科に取り入れ、具体的な実践課題や学習効果を検討した。授業実践により得られた知見から「自然とのかかわり」の内容について、効果が確認できると共に、ネイチャーゲームを取り入れた活動計画を作成し、ネイチャーゲームが教科・学習内容を結びつけるクロスカリキュラムの可能性を検討した。環境教育の展開に貢献できる総合的な学習カリキュラム作りを目指すヒントも得られた。
36. 個別実験・観察による理科と他教科との関係	単	1997年	個別実験・観察による理科と他教科との関係	個別の観察・実験の学習形態を取り入れた理科学習において、実験器具を一人に1台付与することで学習を個別化することにより、情意面では自主性や主体性、責任感や集中度、満足感や成就感など、認知面では数量的なとらえ方など、技能面では適切な操作と正確な測定などの学習効果が確認された。さらに、個別の観察・実験を可能にする実験器具として「簡易ガスビュレット」を開発し、これを用いて教材を中心とした理科、算数科、家庭科等との連携の有効性を検討した。
37. 理科と他教科の連携を支援する教材の開発	単	1997年	『日本理科教育学会四国支部会報』、21頁	「簡易ガスビュレット」を開発し、これを用いて「気体の発生」「気体の膨張」「気体の溶解度」「水中植物の光合成」など小学校学習指導要領での気体教材の展開例の検討を加えた。さらに授業実践を通じて、教材を中心とした理科、算数科、家庭科等との連携の有効性を検討した。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 「主体的・対話的で深い学び」を構想する教材研究	単	2017年02月	新教育課程ライブラリⅡ Vol.2 中教審答申を読む(2) ぎょうせい	
2. 子どもたちから思いや経験を引き出す授業を創る	単	2016年02月25日	新教育課程ライブラリ Vol.2 ぎょうせい	
6. 研究費の取得状況				

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6. 研究費の取得状況				
1. ESDを意識した図画工作科〈ものづくり〉の教育:廃材・剰余材の教材活用を巡って	共	2023年8月19日	日本 ESD 学会 第6回大会	廃材・剰余材に着目した〈ものづくり〉について検討し、本研究を踏えながら現代的で「持続可能な」図画工作科教育の在り方を提案した。
2. 教科並びに給食指導を通じた食育のコンテンツ開発の研究 - 食材を通して 特に乳を中心について -	共	2022年5月1日	食と教育学術研究会	複数の教科等での食育のコンテンツ開発に取り組み、牛乳を扱った社会科、特別活動の学級活動③(キャリア教育)、道徳科を通しての「働くこと」を考える学びを構成した。
3. 問いを見つけ、主体的に学ぶ乳の授業づくりの検討 - 文化的・社会的視点からの教材開発を通して -	単	2018年4月1日	食と教育学術研究会	乳の文化的・社会的視点から教材開発を行い、小学生が問いを見つけ、主体的に学ぶ乳の授業づくりを検討する。
4. 「日本型食生活」を学ぶ食育プログラム集	単	2016年03月02日	発行 武庫川女子大学 農林水産省 平成27年度 消費者ニーズ対応型食育活動モデル事業	学校現場で充実した食育に取り組むには、学生時代における濃厚な食育体験こそが欠かせないという問題意識のもと、「日本型食生活」の理解・体験を盛り込んだ教員養成課程での食育活動のモデル化に取り組んだ。その成果物として、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるための33の食育プログラムを収録したプログラム集を作成した。

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2022年4月1日～現在	農林水産省飼料化事業者の持続可能な原料確保の促進及び差別化畜産物の流通・販売に係る普及事業検討委員会委員
2. 2022年3月～現在	文化庁「子供たちの伝統文化の体験事業」に係る審査委員
3. 2021年4月1日～2022年3月31日	兵庫県教育委員会 食育ハンドブック高等学校版 作成委員会委員長
4. 2020年4月1日～現在	農林水産省和食文化継承の人材育成等事業における講師
5. 2019年5月1日～2020年2月28日	農水省「和食」と地域食文化継承推進委託事業(和食文化継承の人材育成等事業)に係る 検討委員会委員
6. 2019年4月1日～2020年3月31日	兵庫県教育委員会 食育ハンドブック中学校版 作成委員会委員長
7. 2019年4月1日～2020年3月31日	文化庁国民文化祭・にいがた2019に係る企画案選定委員
8. 2018年09月～現在	文化庁「生活文化調査研究事業」技術審査専門員
9. 2018年04月～現在	京都府家庭教育支援協議会委員
10. 2018年04月～現在	京都府食に関する指導充実事業食育推進連絡協議会指導助言
11. 2017年8月24日	通常の学級における特別支援教育研修講座講師 奈良県立教育研究所
12. 2017年04月1日～現在	兵庫県食育実践推進に関する有識者会議 座長
13. 2017年04月01日～現在	文化庁伝統文化親子教室事業に係る協力者会議委員
14. 2017年4月01日～2018年3月31日	兵庫県小学校学級経営研究大会丹波大会全体講師
15. 2017年01月22日	わくわく理科教育セミナー 講師
16. 2016年11月26日	授業のUD研究会in関西 理科のユニバーサルデザイン
17. 2016年4月01日～2017年3月31日	兵庫県小学校理科部会研究大会全体講師
18. 2015年11月26日	奈良県小学校理科部会研究大会講師
19. 2015年11月19日	日本栄養士会 学校健康教育事業部全国研修会 講演
20. 2014年4月1日～2016年3月31日	文部科学省スーパー食育スクール事業選定委員会委員
21. 2013年5月22日～2014年3月31日	文部科学省「今後の学校における食育の在り方」に関する有識者会議委員
22. 2012年11月～現在	文部科学省 全国学校給食研究協議会 講師
23. 2012年4月1日～2016年3月31日	兵庫県学校食育実践検討委員会
24. 2011年04月～現在	徳島県環境学習プログラム推進委員会専門委員
25. 2010年8月～現在	文部科学省 全国学校栄養教諭・学校栄養職員研究大会 講師
26. 2010年04月～現在	日本理科教育学会会員
27. 2009年4月01日～2010年3月31日	農林水産省教育ファーム推進事業効果測定部会委員
28. 2009年4月01日～2010年3月31日	文部科学省「食に関する指導の手引き」作成委員
29. 2009年1月01日～5月31日	農林中金「農業とわたしのたちのくらし」編集委員
30. 2009年～現在	日本個性化教育学会会員
31. 2008年4月01日～2009年3月31日	農林水産省教育ファーム推進事業実践ファイル作業部会委員
32. 2008年04月～現在	徳島県環境アドバイザー

学会及び社会における活動等

年月日	事項
6. 研究費の取得状況	
33. 2007年～現在	日本食育学会会員
34. 2003年04月～現在	環境教育担当教員指導者講習会講師
35. 2001年～現在	日本生活科・総合的な学習教育学会会員
36. 1998年～現在	日本環境教育学会会員